

『対人コミュニケーション研究』の創刊にあたって

対人コミュニケーション研究会

会長 深田博己（広島文教女子大学）

対人コミュニケーションに関心をもつ研究者を組織して、2012年7月に対人コミュニケーション研究会が発足した。対人コミュニケーション研究会の主要な活動目標は、通常の学会や研究会と同様に、当該学問領域の発展への寄与と会員の研究活動の推進の2つである。こうした目標達成の手段の一つとして、本誌『対人コミュニケーション研究』を創刊する運びとなった。

対人コミュニケーションは、個人と個人の間で交わされるコミュニケーション、すなわち個人間コミュニケーションであり、その意味で対人コミュニケーションは、人間が営むあらゆるコミュニケーションの原型である。

対人コミュニケーション研究は、対人レベルの社会心理学である対人社会心理学の分野を中心に発展してきた。対人社会心理学は、最小単位の社会である二者間の社会的行動（対人行動）の生起と影響を、また、対人行動の原因でもあり、結果でもある心理過程（対人心理）と人間関係（対人関係）を扱う。対人コミュニケーションは、二者間で交わされる対人行動のうち、言語や非言語の記号を用いる対人行動であるので、対人行動のほとんどは対人コミュニケーションであると言える。対人社会心理学における主要な対人コミュニケーション研究には、(1)言語的コミュニケーション研究（例：要求表現、ユーモア、方言）、(2)非言語的コミュニケーション研究（例：身振り、表情、視線、対人距離）、(3)自己表現コミュニケーション研究（例：自己開示、自己呈示、アサーション）、(4)社会的影響コミュニケーション研究（例：説得、依頼方略、断り方略、対人葛藤解決方略）、(5)そのほかのコミュニケーション研究（例：欺瞞、うわさ、異文化間コミュニケーション）が見られる。

当面は、社会心理学的な対人コミュニケーション研究を中核に据え、個々の研究テーマの発展を狙うとともに、個別的な研究テーマの統合化を目指したい。そして、将来的には心理学分野全体へと対人コミュニケーション研究を拡大し、心理学的な対人コミュニケーション研究が有機的に統合できる日を待ちたい。おそらく、対人コミュニケーションの成り立ちと仕組み（認知心理学、言語心理学など）、対人コミュニケーションによる人間形成（発達心理学、教育心理学など）、対人コミュニケーションによる社会的影響（社会心理学、組織心理学など）、対人コミュニケーションによる適応改善（臨床心理学、健康心理学など）に関する研究成果が蓄積されるであろう。

最後に、対人コミュニケーション研究にご理解をいただき、研究会活動と本誌刊行に対して、物心両面でご支援いただいた広島文教女子大学の角重始学長に心より感謝申し上げたい。